

大阪対象関係論研究会 主催
2021 年度 上本町対象関係論アドバンスセミナーのご案内

本セミナーでは、英国対象関係論の独立学派を代表するウィニコットをはじめとして、精神分析における独立学派の視点を学んでいます。独立学派の視点はとてもユニークで、人が人として生きる根源の心の動きについて、フロイトやクラインの視点から学びを得ながらも、独自の視点を展開させて今なお心の臨床現場で色あせることなく活用されています。

特に英国の独立学派を代表するウィニコットは、フロイトから始まった精神分析に影響を受けながら、小児科医という臨床経験から数々の新しい視点を心の理解に反映させてきました。特に最早期の母子関係にみられる二者の関係性を独自の対象関係論的視点で精神分析の中に取り入れ、面接空間の中での治療者と患者関係のみならず、環境としての対象の機能面と内的な世界にも着目したことは有名です。そしてなにより実践的です。

これまでは、ウィニコットの主要論文をとおして彼の臨床的視点を学び、さらに、ウィニコットの理論を私たちの日常臨床に置いたときの臨床的な一致点を再確認してきました。また対象関係論の萌芽期を創造したフィレンツィの臨床日記をとおして、精神分析について検討し、フランスのアンドレ・グリーン of 論文集から現代の対象関係論の視点を学んできました。

今年度は、マイケル・パーソンズ (Michael Parsons) の著書“ Living Psychoanalysis: From theory to experience”を素材に、現代の対象関係論的視点を引き続き学びたいと考えています。ご存知の通り、マイケル・パーソンズは、英国独立学派のフェローであり、フランス精神分析協会の訓練分析家でもあります。彼は精神分析において、解釈それ自体が変容をきたすものではなく、治療者と患者とが織りなす分析空間での交流から、患者の中で思考と感情とか繋がって一つの体験として何か動いたときに変容が起こると考えています。それこそが、生きた分析であり、それを体験できるプロセスが精神分析であると捉えています。

その文献からの学びに加えて、館先生から、フロイトとフランス精神分析の視点を中心に「死の本能」をめぐって、夢の理解、映画を素材に審美性などについてお話しいただくご講義も予定しています。

ご興味・ご関心に触れましたら是非参加いただきますようご案内申し上げます。ともに学べますことを楽しみにして、皆様のご参加をお待ちしております。

記

1. 講師：

館 直彦

(たちメンタルクリニック, 精神科医, 臨床心理士, 日本精神分析学会認定スーパーヴァイザー)
その他, 必要に応じて講師を招く予定でいます。

2. 対象：

精神分析および, 精神分析的な心理療法に関心をお持ちの方で, 今年度のテーマに関心をお持ちであればどなたでも歓迎します。その後のディスカッションに積極的に参加していただける方をお待ちしています。文献担当もお受け致しますので, お申込時にご希望があればお知らせください。

講義のみの単回のご参加や, 遠方の方は Zoom でのご参加も可能です。

3. 概要：

セミナーは, 講義と輪読会からなっており, 輪読会では毎回担当を決めます。各章を担当者が発表し, メンバーでのディスカッションに繋がります。外国の文化や視点・芸術という表現を踏まえて, ゆっくりとしたペースで進めていくことになるかと思えます。

4. 参加費：

年間 10 回 30,000 円

講義のみの単回参加 5,000 円/回

5. 参加申し込み：

参加ご希望の方は, 2021 年 4 月 30 日までに, 下記のアドレスに, ①氏名, ②年齢, ③ご所属先, ④経験年数, ⑤連絡先を記載して, お申し込みください。

改めて, 参加の可否等についてご案内いたします。単回の講義へのご参加につきましては, 都度お問い合わせください。その他, ご不明な点がございましたら, 担当までお問い合わせください。

大阪対象関係論研究会事務局： objectrelations.osaka@gmail.com (担当：川野 由子)

6. テキスト：

Michael Parsons (2014) Living Psychoanalysis: From theory to experience. Routledge

7. 開催日：2021 年 5 月～2022 年 3 月

毎月第 3 火曜日 19:30～21:00

8. 開催場所：

たちメンタルクリニック

〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町 6-6-26 上六光陽ビル 601

プログラム

| 日程 | 内容 | 文献購読と講義のテーマ | 担当 |
|----------------|----|---|--------|
| 2021年 5月18日 | 講義 | 「死の本能」をめぐって | 館 直彦先生 |
| 6月15日 | 輪読 | 6 Oedipal disidentification: <i>au nom du fils, au nom de la fille</i> (p84 - 97) | 秋田恭子 |
| 7月20日 | 輪読 | 7 Narcissism as prison, narcissism as springboard: a reading of Sophocles' <i>Ajax</i> (p98 - 110) | 花浴友利子 |
| 8月17日 | 輪読 | Part III The activity of Listening 8 The activity of Listening (p113-137) | 川野由子 |
| 9月21日 | 講義 | 夢の理解 | 館 直彦先生 |
| 10月19日 | 輪読 | 9 The analyst's countertransference to the psychoanalytic process (p137-152) | 担当者 |
| 11月16日 | 輪読 | 10 Raiding the inarticulate : internal setting, beyond countertransference (p153-168) | 担当者 |
| 2021年 1月19日 | 輪読 | Part IV Clinical practice taking shape 11 What does interpretation put into words ? | 担当者 |
| 2月16日 | 輪読 | 12 An Independent theory of clinical technique | 担当者 |
| 3月16日 | 講義 | 審美性について | 館 直彦先生 |